

いぐさ品種「いそなみ」の4月中旬・5月上旬の生育目標値							
〔要約〕 いぐさ品種「いそなみ」の普通刈栽培において、長茎の収量を1,000kg/10a以上確保するための4月中旬・5月上旬の生育目標値を明らかにした。生育量が不足の場合は第1回追肥（ならし肥）の配分量を窒素8kg/10aに増加すると良い。							
筑後分場・い草研究室					連絡先	0942-32-1029	
部会名	農 産	専門	栽 培	対象	工芸作物類	分類	普及

〔背景・ねらい〕

近年、いぐさの単収は停滞気味に推移し、長茎（105cm以上）の収量は800～900kg/10aとなっている。そこで、長茎の収量を1,000kg/10a以上確保するための、4月中旬・5月上旬の生育目標値を明らかにする。

〔成果の内容・特徴〕

①4月中旬・5月上旬の生育目標値を平成2～4年の生育調査結果から、次のとおりとした

項目	時期	4月中旬	5月上旬
茎 長 (cm)		48	70
茎 数 (本/㎡)		1,900	2,800
茎 色 (カラースケール値)		6.4	5.5

②長茎の収量を1,000kg/10a以上確保するために必要な茎中窒素保有量は、生育診断の適切な時期である4月中旬では4kg/10a以上、5月上旬では8kg/10a以上である（図1）。

③この両時期の茎中窒素保有量と生育指数（茎長×茎数×茎色値）との間には高い正の相関が認められ、この単相関式から求めた生育量は4月中旬では 600×10^3 、5月上旬では $1,130 \times 10^3$ である（図2）。

④追肥前の生育量が目標範囲より不足している場合は、第1回追肥（ならし肥）の配分量を8kg/10aに増加すると収量が多くなる（表1）。

〔成果の活用面・留意点〕

いぐさの栽培技術指針に登載し生育診断のための指導資料として活用する。

〔具体的データ〕

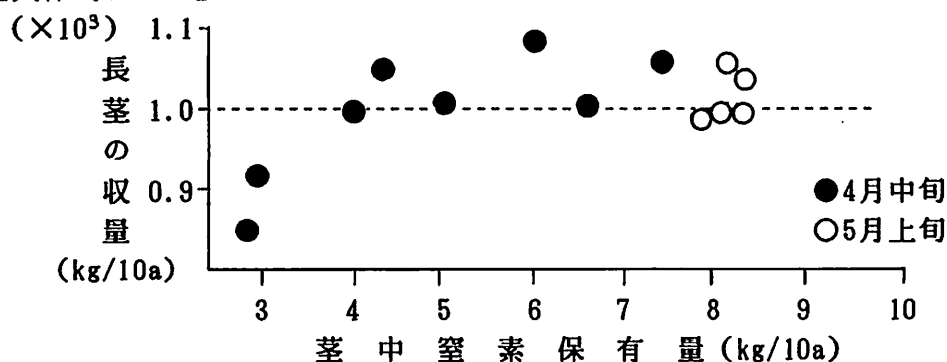


図1 4月中旬・5月上旬の茎中窒素保有量と収量との関係（平成1，3年）

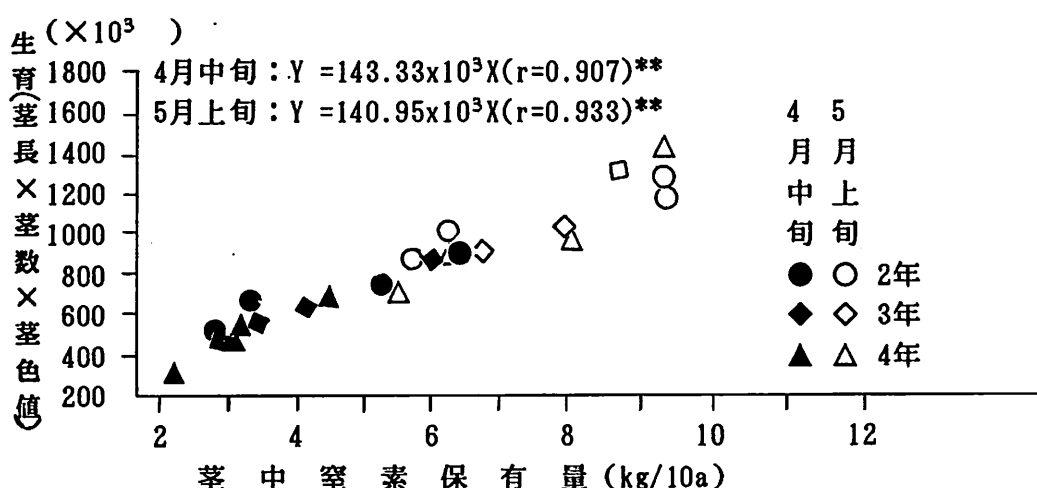


図2 4月中旬・5月上旬の茎中窒素保有量と生育量との関係（平成2～4年）

表1 第1回追肥（ならし肥）量と収量（長茎）との関係（平成3年）

生育診断時期		第1回追肥施用量（窒素 kg/10a）		
4月中旬	5月上旬	2	4	8
—	—	79	88	95
±	±	85	100(1034)	103
+	+	95	105	99

注) ①値は収量（長茎）の標準比率、（ ）はkg/10a

②±は生育量が目標範囲内、+は超過、-は不足

③収量目標は長茎重1,000kg/10a

④追肥総量は窒素49kg/10a

〔その他〕

研究課題名：生育診断による安定栽培法

予算区分：経常

研究期間：平成5年度（平成1～4年度）

研究担当者：大隈充子、松井 洋、森藤信治、藤富慎一

発表論文等：平成1～4年度筑後分場いぐさに関する試験成績概要書